

昭和ノスタルジーを探して

③

滝見小路なにわ食いしんぼ横丁

昭和の街並みを再現

今回は「再現された昭和」を訪ねてみよう。

梅田スカイビルの地下に「滝見小路」という、昭和の街並みを再現した飲食店街がある。昭和30年代のイメージだろうか。建物や



滝見小路にある本物のミゼット

看板はいうにおよばず、街角に停めてある自転車は業務用。後ろにリヤカーを引っ張っていたりお

豆腐屋さんが売りに来たりするときに見かけたことがある人は多いはず。

そして電気屋さんの店先でよく見た、ビクターの犬。蓄音機に聞き入る姿は、亡くなった飼い主の声を聞いているニッパというフォックステリア系の犬をモデルにしたといわれている。

ミゼットの本物が!

つくられた街並みも、中に本物があったこそリアリティが増すというものの。ニッパの前に、これまた懐かしいダイハツ・ミゼットの本物が鎮座している。高度成長時代が幕を開けようとする昭和32年にダイハツから発売された。運転が簡単で小回りが利くので、酒屋さんや牛乳屋さんの配

達や仕入れなどに大活躍した。当時の価格は18万5千円。当時としては「手ごろな値段だった」といわれている。

ここにあるのはMP5型というタイプ。ひとつ前のMP4型までは、ルーフに幌が用いられていたが、MP5型から鋼板で覆われたクローズドルーフになり、ハンドルの形状が丸くなった。

一世を風靡したミゼットだが、軽自動車の主流はやがて四輪のハイゼットへ移る。そして昭和46年12月をもって最後となる受注分の生産を終え、昭和47年1月31日をもって販売が終了したのである。生産台数は国内仕様31万7千152台、輸出仕様が1万9千382台となっている。輸出仕様車のうち約半数は東南アジアに輸出され、中でもタイに輸出された大部分が「トゥクトゥク」というタクシーとして活躍した。

天保山にも昭和の街が

天保山といえば、かつて「日本でいちばん低い山」として有名だった。その栄誉が、過去のものとなったことをご存じだ

ろうか。2014年4月9日に行われた国土地理院の調査で、宮城県仙台市にある「日和山」が標高3メートルの山と認定されたことで、天保山は2番目に低い山となってしまった。

さて天保山マーケットプレスにも、昭和の街並みを再現したエリアがある。「なにわ食いしんぼ横丁」というフードテーマパークで、万博の開催で大阪が元気だった昭和45年頃をイメージしているそうだ。館内は20店舗近くの飲食店街になっていて、駅前の商店街や鉄道の高架下など下町にありそうな店構えは当時の雰囲気溢れている。イカ焼き、たこ焼き、串カツ、お好み焼き、そして冷やしあめなど、大阪人のソウルフードが一気に味わえるエリアだ。

そしてここにもミゼットが鎮座していた。もっとも、こちらのミゼットは、荷台で記念写真が撮れるようになっていた。ハ리포テだ。

ほかにも円筒形の郵便ポスト、ホロー看板など、昭和30年代以前に生まれた人なら思わず「こんなんだ」とい「懐かしい」という言葉が出るはず。



なにわ食いしんぼ横丁にある円筒形の郵便ポスト

滝見小路

大阪メトロ「梅田」「西梅田」「東梅田」、阪急電鉄「阪神電車」梅田「JR」天保山